

# 韓国語検定試験のための自習用モバイル学習教材の開発と評価

金 義鎮\*, 金 惠鎮\*\*

## Development and Evaluation of the Self-study Mobile Learning Materials for a Korean Certification Examination

Euijin Kim\*, Hyejin Kim\*\*

### 1. はじめに

文部科学省の調査(2011年度版)<sup>(1)</sup>によると、大学での外国語科目は英語、中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語の順で開設数が多かった。特に、韓国語は2001年度と比べて約1.6倍まで伸びたが、ほかの外国語の増減は横ばいであった。筆者らの大学でも外国語教育の改革が行われ、2011年度から文系学部を中心に韓国語科目を新設している。韓国語は2年間の学習年数で1年次は必修科目、2年次は選択科目という位置づけである。筆者らは選択科目として2年次の韓国語を選んだ学生に、明確な学習の動機づけと目標を与える一つの方法として、検定試験の受験を課している。

この授業中の試験対策は主に指定教科書を用いるが、毎回到必修単語の暗記問題や過去と予測問題などの参考資料も学生に配布している。しかし、年2回の韓国語の検定試験は学期中に実施されるため、試験日まで7~8回程度の授業しか確保できない。このような状況から筆者らは学生を検定試験の合格まで導くために、授業外でも気軽に試験対策ができるICT技術による自習用学習ツールの活用に着目した。

従来からICT技術を活用した自習用学習ツールの一つとして、自宅やパソコン教室などでのeラーニングの利活用<sup>(2)~(3)</sup>がよく知られている。しかし、これらの学習ツールはパソコンを基盤とすることが多く、

授業外学習すなわち通学時や休みのときなどの日常生活で気軽に自習できる環境までは至っていない。つまり、時間や場所によって授業外の学習が制約されることが従来のeラーニングの課題として挙げられる。

そこで、本研究では短期間で持続的に授業外でも学習を促すツールとして、常に持ち歩きやすいモバイル端末を用いた自習学習について述べる。モバイル学習はノートやペンなどが使いにくい通学時の満員電車やバスの中でも簡単に利用できる利点は大きく、いつでもどこでも自分の都合に合わせた学習時間の確保も大いに期待できる。なお、本研究の目的は検定合格を目指す学生に授業外の日常生活で使いやすいモバイル自習環境を提供することで、モバイル学習が授業外の検定試験対策の自習に有益であることを実践活用による評価で明らかにすることにある。評価は、(1)ユーザビリティ、(2)利活用形態、(3)モバイル教材による学習、(4)学習効果、という四つの項目に対して行い、その回答結果から本モバイル教材の有効性を検証する。

### 2. モバイル学習教材の開発

#### 2.1 背景

私立大学情報環境白書<sup>(4)</sup>によると、eラーニングはさまざまな教育分野で活用され、大規模私立大学で5割強がすでに活用されていると記されている。外国語学習においても、eラーニングは積極的に活用され

\* 東北学院大学工学部 (Faculty of Engineering, Tohoku Gakuin University)

\*\* 東北学院大学教養学部 (Faculty of Liberal Arts, Tohoku Gakuin University)

受付日: 2013年4月4日; 再受付日: 2013年6月12日; 採録日: 2013年7月19日